

病院情報誌

はまつかぜ
はまつかぜ

鹿島労災病院

茨城県神栖市土合本町1-9108-2

Tel0479-48-4111 Fax0479-48-3012

ホームページアドレス

<http://www.kashimah.rofuku.go.jp/>

平成22年12月

[第51号]隔月刊

《目次》

労災病院の役割と今後 … 病院長 守屋 秀繁	2
副院長、右膝人工関節置換術を受ける … 副院長 鏡味 勝	4
魔法の水 … 外科 田島 泰	6
～患者さんからお便りをいただきました～	7
講演会のお知らせ 公開市民健康講座	8

メニューの値段の正体

労災病院の役割と今後

病院長のひとりごと (20) 病院長 ^{もりや}守屋 ^{ひでしげ}秀繁

全国の労災病院は労働者の健康を守る目的で、1949年に九州労災病院を皮切りに全国に作られました。その間、1957年には「労働福祉事業団」が国から多額の運営費の援助を受けながら、多くの事業を行ってきました。労災病院の多くは炭鉱のある町、医療過疎の町、新しいコンビナートのある町などに作られ、最も多い時には全国で39病院ありました。2004年に小泉改革で経営母体が「独立行政法人労働者健康福祉機構^{ろうどうしゃけんこうふくしきこう}」となり、国からの運営費の補助は無くなりました。その後、炭鉱廃止などで人口の減った地域の労災病院が次々と廃院になり、現在では32病院となっています。



鹿島労災病院は私の着任した2007年4月の時点では全国に34病院あった労災病院の中で下から2番目の収支の悪さでした。その後、色々と努力した結果、現在では34病院ある労災病院の真ん中辺まで改善しましたが、それでも必要な設備を整えながら運営していると、年度会計では赤字になってしまいます。良い医療をしていて赤字になるのなら、それは仕方のない事と私は思っていますが、何とかならないものかと何時も考えています。

現在、当院の患者さんのうち、労災保険を使用している患者さんは2～3%です。その他は神栖市在住の患者さんが約6割、その他、近隣の市や町からの患者さんです。当院は開設時の諸事情で産婦人科と小児科は始めからありませんし、現在では眼科、耳鼻科、泌尿器科の常勤医師が不在ですが、その他の医師は日中の業務の他に、当直や待機という形で、夜間のほとんどの救急患者さんを受け入れています。そのように地域の救急医

療に貢献しているという事で、やっと昨年度から神栖市から年間約 1,000 万円程度の補助金を頂けるようになりました。それでも年間 1 億円弱の赤字の補填^{ほてん}には十分ではありません。



今後、厚生労働省は本年度から病院収支の具合で、個々の労災病院を存続させるかどうか決めているようです。当院もどうなってしまうのか大変不安です。もし、当院が無くなってしまったら現状では市民の方々は

大変なことになるのではないかと思います。

神栖市がもう少し応援してくれると存続、改築が出来るのですが、市長さんお願いできませんでしょうか。

副院長、右膝人工関節置換術を受ける

副院長 鏡味 勝 かがみ まさる

5月11日、わたしは右の人工膝関節置換術を受けました。膝は変形性関節症のため、運動すると痛みがあり、しかも、安静にしているときも痛みがありました。手術に踏み切ろうと心に決めました。33年前、同部位の手術に当たって下さった守屋先生が今回の手術の執刀医をしてくださるのも何かの縁と不思議な感じになりました。

手術前から、2回の貯血を行い手術時の血液の喪失に備えました。人工関節置換術では多量の出血が危惧されるのです。X線検査では、CTやMRIを行い、骨の状態や人工関節の装着具合を調べました。前もって、ちゃんと骨がうまく位置が合うようにするためです。

手術室では、横になって、麻酔の注射からは覚えがありません。後からわかったのですが、傷は以前の傷口に合わせてありました。術者の先生方のご苦勞に感謝申し上げます。ありがとうございました。



手術も無事終わり、部屋にもどると、斎藤康栄先生と伊藤隆先生が代表してきてくださいました。私がいけない間、多くの患者の代理として、内科を代表すること。これは大変なことです。斎藤先生、伊藤先生以下の内科の先生方、頭が下がります。この場を借りて御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

術後はリハビリが大変でしたが、順調に経過し、今では杖もなしで歩行もでき、痛みもだいぶなくなりました。膝の動く角度は入院前より、少なくなりましたが、十分です。より多くの

膝の痛みを訴える方、痛みを耐えている方、どうぞ私の膝の手術を参考にしてください。整形外科の先生に相談なさってください。膝の痛みを忘れるために。

魔法の水

外科 たじま 田島 やすし 泰

私は大学時代ラグビーに打ち込んでいました。

太陽が照りつける中、ひたすらしごかれて汗まみれになった時にマネージャーが持ってくるやかんの水が大変うまかったのを覚えています。激しくぶつかってグラウンドに倒れているところにその水を頭からかけられると不思議とまた力が湧いてきてプレーを続行することができました。

今になって考えると、チームメイト全員で飲み回したやかん、水質検査も通っていないような井戸から汲んだ不潔くそうな水が、なぜあんなにうまかったのでしょうか？なぜ力が湧いて来たのでしょうか？不思議に思います。

どんな病気でも癒す魔法の水はなかなかありませんが、限られた医療の中で患者さんに最適の医療を全力で提供することが医師の使命だと思っています。しかし御家族の励ましはげや医療スタッフの親身な対応が病気で苦しみながらも治療を頑張っている患者さんに希望や勇気を与えているところを現場でよく目の当たりにしますと、大学時代の魔法の水をふと思い出すのです。



～患者さんからお便りをいただきました～

「10月号・はまっかぜ」院長のひとりごと読みました

・ ・ 患者のひとりごとです

患者は身勝手ですね。医師はじめ病院のスタッフの方々に、いのちを支えてもらっていて本当はそれだけで十分すぎるのに、ひとつの願いが叶うと次の要望がでてくる。面白いですね。

待ち時間の件ですが、確かに待ち時間は短いほうがよいですね。待ち時間を大いに活用しています。普段忙しく時間に追われておりますので、この待ち時間はリラックスタイムと思い、本を読んだり、病院内の掲示物やいろいろな方々をウオッチングしたりと、学ぶ機会としています。

「はまっかぜ」も検査室の前に掲示してあるので、拝見させていただき、スタッフの方々のさまざまな一面を垣間見ることができ、味わい深く感じています。人のいろいろな思いを知ることって、親近感が生まれやがて信頼感へとつながると思っています。ちょっと視点をかえてみると、待ち時間も有意義に過ごせるものです。

それともうひとつ、長い時間またされても自分の診察の順番がきて、しっかり自分の話を聞いてくれる姿勢が伝わってきたり、ちょっとした一言を添えてくれるだけで満足します。「今日はずいぶん混んでいますね」と言ったときに、「ごめんなさい」と返してもらおうと、逆に恐縮する気分になったりします。

ちなみに私は毎回そのように接してもらいますが。

患者さん〇〇より

講演会のお知らせ**公開市民健康講座**

	第14回
テーマ	わかりやすい介護保険
講師	看護副部長 鈴木恵美子
日時	平成23年1月26日(水) 15時～16時

場所は鹿島労災病院
2階講堂です。

参加費は無料、
予約も不要です。

お問い合わせは
鹿島労災病院総務課
までお願いします。



メニューの値段の正体

～はまっかぜレストランへようこそ



《中華メニュー》



あっさりラーメン
450円



こってりラーメン
800円



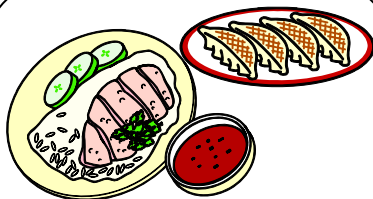
焼きそば
650円



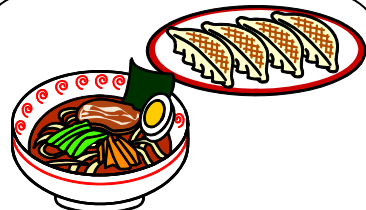
ウーロン茶
0円



酢豚定食
820円



チャーハン・餃子セット
1,050円



ラーメン・餃子セット
1100円

《洋食メニュー》



グラタン
650円



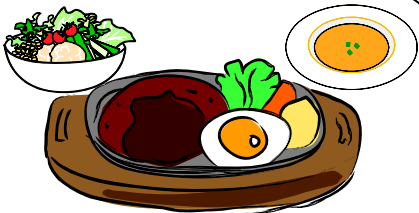
オムライス
750円



スパゲティミートソース
700円



カツカレー
1,300円



ハンバーグセット
(ライス付き) 800円



クリームソーダ
250円



コーヒー (ブラック)
0円

出前はいたしません、ご相談には応じます。

なあんちゃって・・・

この数字の正体は値段ではなく“平均的なエネルギー量 (kcal)”です。

皆様、くれぐれも食べすぎにはご注意ください！

栄養管理室